

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 1 生徒が将来の夢を明確な目標として堅持し、それに向けて努力を継続できるよう、個別にサポートできる体制づくりに取り組む
- 2 規律正しい生活及び家庭学習の習慣を確立させ、自習室の利用等による自律的学習の強化を図るとともに、主体的に部活動に参加できるバランスのとれた生徒の育成に取り組む
- 3 あいさつ、敬語の使い方等のコミュニケーション能力をさらに向上させるとともに、他人への思いやりある生徒の育成に取り組む
- 4 国際交流を始めとする生徒・保護者の多様なニーズに応え、地域の幼稚園、保育所、小・中学校等の教育資源との連携や各種の地域活動への参画などを通じた生徒の自尊感情の高まりによる「国際感覚を備えた地域に貢献できる若きリーダーの育成」に取り組む
- 5 人格形成、学習指導、キャリア教育等において、さらなる満足度アップを実現する、元気でたくましい生徒があふれる「明るくさわやかな学び舎」「安全・安心の学び舎」づくりに取り組む

## 2 中期的目標

## 1 さらなる学力の向上及び進路の保証

(1) 生徒が主体的に学べる充実した授業の実現に取り組む。

ア グループワークを取り入れることにより、主体的な学びをめざし、協同作業及び討論を行わせ、発表能力を向上させる。

イ タブレット端末を含む ICT の活用により生徒の興味を引き出すとともに、アクティブ・ラーニングを取り入れ、教員と生徒及び生徒同士がキャッチボールができる授業を行い、脳の活性化を促すとともに授業時間を有効に活用する。

ウ 少人数展開や進路別授業、実験・実習の充実により全教科でわかる授業を展開する。

(2) 個々の進路希望を実現する新カリキュラムによる学習指導を進め、家庭学習指導、個別指導の充実を図ることにより、進路の保証に結び付ける。

ア 生徒の進路希望を尊重した選択科目により、主体的に学ぶ意欲を引き出す。

イ 受験用学習教材を用いるとともに、取り組みやすい学習課題づくりや小テストの実施等により、家庭学習の重要性を認識させる。

ウ 早朝、放課後の講習・補習及び長期休暇中の学習イベントにより「わかる・できる」を体感させる。

※生徒向け学校教育自己診断における【授業満足度】（平成 26 年度 63.4%）を平成 29 年度には 75%にする。

※生徒向け学校教育自己診断における【カリキュラム満足度】（平成 26 年度 65.2%）を平成 29 年度には 75%にする。

※国公立大学合格 10 名以上、関関同立合格 100 名（のべ）以上（看護・医療系、公務員等一人一人の目標への指導を含む）

## 2 キャリア教育のための環境づくり

(1) 自立・自律した人間として、将来の生き方を考えることができるプログラムを展開する。

ア 土曜授業を念頭に置いた「志学」、総合、LHR の中期的計画及び指導計画を策定する。

イ 地域連携、国際交流の充実に向けた体制を整備する。

ウ 将来の生き方を見据えた「進路」を決定するために必要なプログラムを準備する。

エ 狭山生として必要なルールである「さやまスタンダード」の徹底を図る。

(2) 互いの違いを認め合う人権尊重意識の向上に取り組む。

ア 多様な機会を生かした人権教育を推進する。

(3) 学校生活の充実に向けた体制づくりに取り組む。

ア 学校としての相談体制を明確にするとともに、学年団（担任）及び部活動における相談体制を確立する。

イ 部活動、生徒会活動等の活性化と参画の継続を図るとともに、退部した生徒のフォローに努める。

※生徒向け学校教育自己診断における【学校生活満足度】（平成 26 年度 75.0%）を平成 29 年度には 85%にする。

※生徒向け学校教育自己診断における【相談体制満足度】（平成 26 年度 60.0%）を平成 29 年度には 70%にする。

## 3 学校改革に向けての盤石な体制づくり

(1) 教職員による体制づくりに取り組む。

ア SP 委員会 NEXT により、学校の将来像を検討するとともに、課題解決案を提案する。

イ 事態対処の事例研究により、教員のノウハウを伝承するとともに人材育成を行う。

(2) PTA、同窓会等活動の活性化に取り組む。

(3) 学校協議会の提言を具現化する。

※教員向け学校教育自己診断における【学校運営への参画意識】（平成 26 年度 69.6%）を平成 29 年度には 85%にする。

※保護者向け学校教育自己診断における【学校満足度】（平成 26 年度 83.5%）を平成 29 年度には 90%にする。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>(全 般) 全般的に満足度が 2 年連続で上昇したのは、学校における各種活動が活発化したためと考える。</p> <p>(学習指導等) 授業満足度の上昇は、アクティブ・ラーニングの挑戦等授業改善により多岐にわたる授業が提供されているためと思考する。</p> <p>(進路・キャリア教育等) キャリア教育満足度の 2 年連続の急上昇は、各学年とも積極的に取り組んだ成果であり、進路保証にも結び付くと思考する。</p> <p>(その他) 「国際交流」、「地域連携」について認識は高まったが、活動の割にはなかなか認識が高まらない。国際感覚を身につけ、地域への貢献が意識できるさらなる工夫が必要である。</p>	<p>第 1 回 (6 月 3 日)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 これからの高校教育は、社会人としての資質能力を育成することが重要</li> <li>2 狭山高校の知名度は、極めて低い。</li> <li>3 中 3 生への有効なプレゼンテーションが必要</li> </ol> <p>第 2 回 (11 月 18 日)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 将来の生き方を考えるキャリア教育を継続実施していることは、評価に値する。</li> <li>2 入試制度の複雑化により、保護者はデータ量の多い塾を信頼している。</li> <li>3 3 年間で学力等を伸ばしていることを PR することが必要</li> </ol> <p>第 3 回 (2 月 24 日)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 2 月 4 日実施の「未来の教育講座発表会」は、狭山高校らしい素晴らしい取り組みだった。</li> <li>2 大阪狭山市内の中高連携のさらなる強化が必要</li> </ol>

3 受験生はHPをよく見るので、さらに意を用いるべきである。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 さらなる学力の向上及び進路の保証	<p>(1) 生徒が主体的に学べる充実した授業の実現に取り組む。</p> <p>ア グループワーク導入による協同的学び、発表能力の向上</p> <p>イ ICTの活用による教員と生徒の対話の実現及び授業の効率化</p> <p>ウ 少人数展開、進路別授業等同質集団による授業の質の向上</p> <p>(2) 個々の進路の保証</p>	<p>(授業力の向上)</p> <p>ア グループワークを取り入れ、少人数で協同作業、討論を行うことにより生徒に自信をつけさせ、自発的な発表の機会を促すとともに発表能力を向上させる。</p> <p>イ タブレット端末を含むICTを活用することで生徒の興味を引き出し、教員と生徒がキャッチボールしやすい環境をつくる。また、プロジェクター、黒板、プリント等をバランスよく用いて集中力を持続させ、授業時間を有効に活用する。</p> <p>ウ アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業に挑戦する。</p> <p>エ 少人数展開、進路別授業で理解度を向上させる。また、実験・実習を充実させ経験値を上げることで理解度を向上させる。</p> <p>オ 教員同士が授業観察をする期間を設ける。</p> <p>ア 選択科目により主体的学びを引き出す。</p> <p>イ 講習・補習・勉強合宿を充実させる。</p>	<p>※【 】は学校教育自己診断による</p> <p>【授業満足度70%】 (H26年度63.4%):生徒</p> <p>【カリキュラム満足度70%】 (H26年度65.2%):生徒</p> <p>【ICTの活用度45%】 (H26年度41.4%):教員 (授業アンケート:3.05→3.10)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特色ある授業力向上事例の視察と報告による校内研修の実施</li> <li>講習や学習イベントへの参加 生徒満足度向上(企画ごとの生徒満足度調査・平均80%目標)</li> <li>国公立大学合格:10名以上</li> <li>関関同立合格:100名(のべ)以上</li> <li>看護・医療系、公務員等生徒のニーズによる講習の実施</li> </ul>	<p>(授業力の向上)</p> <p>27年度も引き続き「グループワーク」「ICTの活用」を取り入れた授業改善に取り組み、ICTを活用する教員が50%を超えたので、維持したい。(◎)</p> <p>授業アンケートの結果が、1学期3.12、2学期3.11と一定の成果を得た。その結果、授業満足度66.9%、カリキュラム満足度67.7%と、昨年度に比べ上昇した。一部教員がアクティブ・ラーニング型授業に取り組む等、教員の挑戦と努力の成果であると考え。(○)</p> <p>受験を念頭に置いた各種学習イベントには多くの生徒が参加し、目標の進学実績実現への原動力となっており、生徒一人ひとりが望む進路保証が実現できている。(◎)</p> <p>(大学合格状況)3月31日現在 国公立大学:9名(現役6名) 関関同立:103名、近大:108名</p>
2 キャリア教育のための環境づくり	<p>(1) 将来の生き方を考えることができるプログラムを展開する。</p> <p>ア 「志学」等の中期的計画の策定</p> <p>イ 地域連携、国際交流の充実に向けた体制整備</p> <p>ウ 当面の進路決定に必要なプログラムの準備</p> <p>エ 「さやまスタンダード」の徹底</p> <p>(3) 学校生活の充実に向けた体制づくりに取り組む。</p> <p>ア 相談体制の明確化及び確立</p> <p>イ 部活動、生徒会活動等の活性化</p>	<p>(キャリア教育)</p> <p>キャリア教育を「生きること、学ぶこと、将来の職業を一体化させること」ととらえ、狭山生に自立・自律した人間として早期に目標を持たせ、将来の生き方を考えさせたい。</p> <p>ア 土曜授業を念頭に置いた「志学」、「総合」、LHRを通じて、生きる意味を考え、将来の生き方を考えさせる。</p> <p>イ 狭山池まつり等の地域活動を通じて、また幼・小・中学校との連携を通じてボランティアの意味を考えさせる。また、国際交流活動を充実させ、グローバルルームの活用を図る。</p> <p>ウ キャリアガイダンス等進路選択に必要なプログラムを準備するとともに、進路指導室、自習室をさらに活用する。</p> <p>エ 狭山生として必要なルール(早起き、挨拶、自転車マナー、敬語、携帯電話、服装等)である「さやまスタンダード」を徹底する。</p> <p>(相談体制づくり等)</p> <p>ア 学校としての相談体制を明確にするとともに、学年団(担任)及び部活動における相談体制を確立する。</p> <p>イ 部活動、生徒会活動等の活性化と参画の継続を図るとともに、スロー・ジョギング等を実施し退部した生徒のフォローに努める。</p>	<p>※【 】は学校教育自己診断による</p> <p>【キャリア教育満足度70%】 (H26年度64.1%):生徒</p> <p>【地域連携参画意識50%】 (H26年度41.4%):生徒 (H26年度36.6%):保護者</p> <p>【国際交流参画意識60%】 (H26年度58.6%):生徒</p> <p>【相談体制の満足度65%】 (H26年度60.0%):生徒 (H26年度56.0%):保護者</p> <p>【部活動の満足度75%】 (H26年度71.9%):生徒</p> <p>【生徒会活動参画意識60%】 (H26年度55.5%):生徒</p> <p>【行事満足度80%】 (H26年度74.5%):生徒</p> <p>【学校生活満足度80%】 (H26年度75.0%):生徒 (H26年度83.5%):保護者</p>	<p>(キャリア教育)</p> <p>2年生が「総合的学習」とHRを活用しカタリバ、ビブリオバトルに取り組み、1年生は受験サプリの「よのなか科」に取り組み、その成果を「未来の教育講座発表会」として実現した。(◎)</p> <p>国際交流では、生徒約300名が春、秋2回に渡り台湾の高校生と交流したこと、また、オーストラリアの姉妹校が秋に来日したこともあり、国際交流参画意識は60.0%と微増した。(○)地域連携においても、狭山池まつりやクリーン・アクション等多くの活動を行い、地域連携参画意識が47.2%と増加した。(○)(相談体制づくり等)</p> <p>相談体制の満足度65.1%、学校生活満足度78.2%と、生徒の満足度の上昇に加え、保護者の満足度が60.0%、86.5%と上昇したことは、安全・安心の学び舎として認識されていると考える。(◎)</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 学校改革に向けての盤石な体制づくり</p>	<p>(1) 教職員による体制づくりに取り組む。</p> <p>ア SP 委員会 NEXT による学校の将来像の検討</p> <p>イ 事態対処の事例研究により、教員のノウハウの継承及び若手の人材育成</p> <p>(2) PTA, 同窓会等活動の活性化に取り組む。</p>	<p>ア SP 委員会 NEXT で、近い将来の狭山高校のあるべき姿を検討する。</p> <p>イ 生徒指導事案等身近な事例を題材に、特に若手教員を中心に、事態対処の事例研究を行う。</p> <p>PTA、後援会及び同窓会との一体化を進め、学校の応援団としての活動の活性化を促進する。</p>	<p>※【 】は学校教育自己診断による</p> <p>【学校運営への参画意識 75%】 (H26年度69.6%) : 教職員</p> <p>【危機管理意識 75%】 (H26年度71.5%) : 教職員</p> <p>【PTA 参画意識 70%】 (H26 年度 65.9%) : 保護者</p>	<p>教職員の学校運営への参画意識 71.5%と微増、危機管理意識 68.9%と微減したが、教員間の凝集性の高まりは非常に感じられる。(○)</p> <p>年々増加する若手教員に対し、30代の首席が定期的に勉強会を実施し、実践に即した適切な指導に当たっている。(○)</p> <p>PTA 役員を中心とする PTA 及び後援会活動が活発化し、保護者の PTA 参画意識が 71.0%と 2 年連続上昇した。(◎)</p>
--	---	--	--	--